

## KG神奈川第24回ミニ講演会 報告

関西学院同窓会神奈川支部事務局

日 時:2025年9月6日(土)午前10時～11時30分(終了後、懇親会)

場 所:関内・澤田聖徳ビル5階B会議室

参加者:講演会23名(1964～1984年卒)、懇親会21名

講 師:今井和彦氏(1975年経済学部卒)

テーマ:「鉄道趣味－こだわりの世界」

### 《はじめに》

今回の講師、今井和彦氏は奈良市生まれで、西宮市上甲東園の自宅から関西学院中学部、高等部を経て関西学院大学経済学部に通われ、卒業後は総合商社に就職し、鉄鋼部門のビジネスや内部監査業務に携わり、アフリカ、中東での駐在経験をお持ちです。

子供のころから好きだった鉄道は、成長とともに関心が高まり、高等部在籍中に鉄道研究会を設立、大学では鉄道研究会に入会して日本各地で活動し、自他ともに認める鉄道ファンです。昨今一大ブームとなってきた鉄道ファンの分類・定義やその「こだわり」、講師が「鉄道」に入り込んだ経緯や様々な活動における苦労話とその成果などをお聞きました。



当日の受付は高沢副支部長(1983 文)と松山幹事(1984 経)が、司会は柳澤副支部長(1979 商)が担当してくれました。井村支部長の秋の総会案内と同窓会本部の新組織(東日本エリア運営戦略会議)の動向を含めた開会挨拶の後に、柳澤副支部長の講師紹介と「出発進行！」の合図で講演会がスタートしました。

### 《講演内容》

#### 1. 鉄道趣味について

男の子なら誰しも汽車・電車で夢中になった時代があるはずです。幼き頃、行き交う汽車や電車を飽かずに眺めたり、乗車した先頭車両の前面車窓や運転手の動きを食い入るように見ていたりしたことでしょう。

趣味は？と人に聞かれると、旅行や温泉巡り、テニス、スキー、読書など言い並べた最後に鉄道と答えます。相手は鉄道の中でもどの分野かと問いただしてくるのですが、私ののは「撮り鉄」「乗り鉄」「時刻表鉄」です。実際、趣味の中でも鉄道に割く時間が最も多いです。

「鉄」という漢字は「金」と「失」に分解され、「鉄道」とはまさしく「金を失う道」といえます。趣味の

こだわりの世界にのめり込むと金を使ってしまう。

## 2. 私と鉄道趣味

男の子ならいろいろな乗り物、即ち飛行機、船、自動車、鉄道に興味があったはずで、身近に絵本が並んでいました。鉄道好きになったのは、阪神間に住まいしたこともあり、国鉄(当時)、私鉄(阪急、阪神)、市電、地下鉄などを利用する機会が多かったことも理由でしょう。

小学生時代から自宅にあった時刻表を眺めることを始めて、中学時代には定期購読するようになり、毎月毎号を熟読して、誤植を見つけると編集部にはガキで投稿して礼状をもらったこともあり。中学部時代に月刊の鉄道雑誌の定期購読を始めて、3年生の時に初めて鉄道写真とその説明文を投稿し、掲載されました。感激しました。級友仲間にも鉄道ファンがいて、皆が知りそうにない車両情報や特徴を言い合うことで子供ながらに満たされた気分になっていました。

この頃から「知識」習得に飽き足らず、「写真」を撮って見せびらかせたいと思う気持ちも芽生え、地元から徐々に活動範囲を広げ、全国に撮影旅行に出かけていきました。九州、東北などに出かける折には、いかに費用を抑えて、効率よく撮影するために夜行列車の座席で寝ることが多く、たまにはユースホテルを利用したりしました。高等部に進学してからは同学年の鉄ちゃん、後輩たちとで鉄道研究会を発足しました。大学入学と同時に鉄道研究会(鉄研)に入会、20名前後の会員と活動をしていましたが、社会人になってからは仕事優先となり、海外勤務もあり思うように鉄道趣味活動は行えませんでした。

## 3. 鉄道趣味のこだわり分野のカテゴリー

一口に鉄道ファン(鉄ちゃん)と呼ばれますが、細かな活動も含めると趣味の分野は13種類ほどあり、「撮り鉄」は最もポピュラーですが、他にも「乗り鉄」「車両鉄」「廃車体鉄」「模型鉄」「録り鉄、音鉄」「収集鉄」「駅弁鉄」「時刻表鉄」「駅巡り鉄」「施設設備・運転の研究」「廃線跡、未成線、廃駅跡の探訪」「かつての鉄道車両・施設の探訪」と続きます。

「乗り鉄」で感動したのは南アフリカを走行する豪華列車「ブルートレイン」です。首都プレトリアから南端のケープタウンまでの2泊3日で結ぶ豪華列車です。

「車両鉄」というのはまさに車両(分類、装置など)を研究する分野です。その面白さは(国鉄の場合)同型の車両でも配置される地域特性や気象条件、輸送量などを勘案した車両装備のカスタマイズにあり、レアな車両は車両鉄の興味をそそります。これは私の鉄道趣味のコアな部分でもあり、後ほど詳しくお話しします。



「収集鉄」は文字通り「集める」ことですが、対象は切符、駅スタンプ、途中下車印、車両部品などなど多岐にわたります。

#### 4. 列車走行写真の撮影時の苦労話

今や撮り鉄の行動は社会現象の一つとなり、時に物議をかもしこともあります。半世紀前においてはファン人口もさほど多くなく、マナーも良く、線路際での鉄道の撮影は黙認されていたので、せいぜい保線員から気を付けるように注意される程度でした。おおらかな時代でした。撮り鉄にとって最大の課題は撮影場所の選定です。今でこそ情報が氾濫していますが、当時は自分の足で探すことしかなく、実際には車窓から眺めながらポイントを見つけてもそこに辿り着くためには、最寄り駅から時には道なき道を歩くしかありません。豪雪の北海道などは寒さ対策、真夏の撮影では水分補給と苦労の連続でした。当時の大半の車両の便所は車外への垂れ流し方式です。線路際の撮影では黄色の飛沫を浴びないように注意を払っていました。

#### 5. 鉄道雑誌投稿

鉄道ピクトリアルという月刊鉄道雑誌に写真と説明文を投稿し、自分の写真が印刷され記事が活字となって掲載されると嬉しく感じました。同誌は毎号で次々号の特集予定が発表されるので、そのテーマをもとにストックしてきた画像の中から選りすぐりを見つけ出し、当時の時刻表などを参照に原稿を作成します。日々の活動はこの雑誌投稿がメインとなっています。

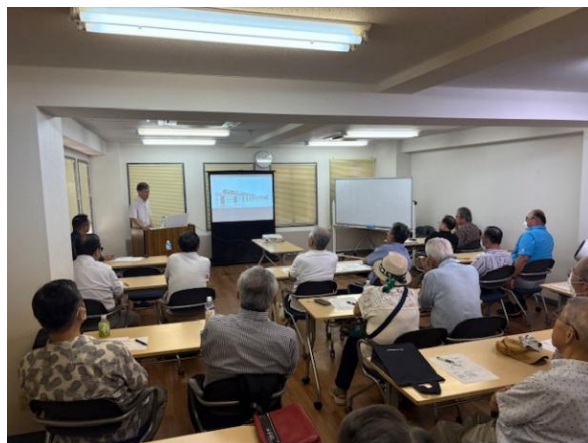
#### 6. 半世紀前の鉄道写真

(ここでは国鉄、阪急、阪神沿線などの古い鉄道写真が投影されました。)

#### 7. 現在の鉄道趣味活動

鉄道雑誌への投稿活動の傍ら、鉄研 OB 会の仲間との活動を行っています。毎年、西宮市内のギャラリーで開催される鉄道写真展や鉄道模型運転会への写真出品や鉄研現役生と地方鉄道の車両を貸し切って乗車、懇親する機会などを楽しています。

鉄道趣味を通じて得られた最大の宝物は、こうした鉄研 OB を中心とした多くの終生の友を得ることができたことです。特定の分野に関心を持つ者同士の連帯感、年齢に関係なくその分野の話に入り込めるという居心地の良さがあります。



## 8. おわりに

この講演を引き受けた時からずっと考えていたのは、「どうして鉄道を好きになったのか」でした。私自身、鉄道趣味の活動を振り返ってみると、「好きとはいえ膨大な時間を注ぎ込んだ」という思いと「そのいずれの場面も楽しかった」という感想に尽きます。「好き」に理由はなく、好きだから楽しく、楽しいから続けて来られたと思うのです。ご清聴をありがとうございました。

「講演会後の集合写真～最前列左から2人目が今井氏」



### 《本人の後日談》

講演は所定時間でまとめることが出来ました。何人かの参加者からも、良かった・面白かったとの意見をいただきました。自分自身も大画面の画像を示しながら好きな話をする事で存分に楽しむことができました。一方、やっと解放された気持ちもあります。

ひとつの心残りは「電車」=「電動客車」の略を、クイズ形式での出題を失念したことです。その昔、すべての旅客列車は蒸気機関車が動力を持たない箱(客車)を牽引していました。

みなさまのご支援に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 《事務局後記》

準備段階から今井さんの几帳面さが前面にあふれ出ていました。トークシナリオは何度も推敲を重ねて、投影する写真も多くのファイルから厳選されたものでした。何より所定の講演時間をぴったりと守っていただき、事務局としては大変助かりました。小学生のころに口ずさんだ♪線路は続くよどこまでも♪のように、今井さんの鉄道愛がこれからも続いていくことを心から祈っております。

以上(文責:事務局長 松本邦康)